

やないづ

議会だより

Yanaizu

No.183

2025.08.29



Topics

6月定例会 6月4日～6月6日

- ・行政調査特集……………2
- ・6月定例会審議……………4
- ・一般質問……………8
- ・議会活動……………14
- ・ちよつと一言 など……………16

令和7年夏 深緑の西山温泉郷

にしあわくらそん
岡山県西粟倉村

地域おこし協力隊を活用した
ローカルベンチャー事業を調査

6月18日

西粟倉村は、岡山県北東部に位置し、面積の92.6%を森林で占め、うち83.6%が人工林、人口1,318人、608世帯で、「平成の大合併」をせずに自立の道を歩む決断をした村である。50年前に植林した森林を立派な百年の森林に育て上げていく森林づくり・村づくりビジョンの「百年の森林構想」をもとに、森林資源を活かした「上質な田舎」を目指し地域づくりに取り組んでいる。これまで18年の間に、木材利用などの62のローカルベンチャー事業が生まれ、事業創出に成功している。また、地域おこし協力隊制度を有効に活用し、起業型、行政連携型、企業研修型の3つの体系で、50人以上の隊員が活躍をしている。

西粟倉村の位置



村役場の会議室で説明を受けた



つやまし
岡山県津山市

城東重要伝統的建造物群保存地区の
町並み整備事業を調査

6月19日

津山市は、城東重要伝統的建造物群保存地区の町並み整備について現地を調査した。この保存地区は、商家町として発展した町並みで、江戸時代に形成された地割がよく残っている。江戸時代の町家を主体として、「切妻造平入」とし、出格子、虫籠窓、なまこ壁、袖壁など意匠的に優れた伝統的建造物が建ち並んでおり、城下町に形成された歴史的風致をよく伝えている。

津山市の位置



津山城跡 (国指定史跡)
桜の名所



城東重要伝統的建造物群
保存地区の様子



たかはしし
岡山県高梁市

歴史的風致の景観保全と形成等の 取組を調査

6月19日

高梁市は、人口25,580人、12,966世帯で、岡山県中西部に位置し、平成の大合併により1市4町が合併し高梁市となった。平成22年11月に「高梁市歴史的風致維持向上計画」の認定を受け、それ以前の景観に関する取組の下に、平成23年から3年半をかけて景観計画の策定と条例化をした。それまでの経緯と取組内容や施行後の景観まちづくり事業の実施状況と今後の課題など、当町でも大変参考となる説明を受け、活発な意見交換を行った。その後、建造物の外観などの保存修理、修景整備をしている歴史的町並み景観形成ゾーンの現地調査を行った。



高梁市立図書館で説明を受けた



紺屋川の景観



整備された武家屋敷通り

整備された建造物

岡山県岡山市 吉備津神社



室町時代に再建された本殿、拝殿は「比翼入母屋造」で全国唯一の建築様式で国宝に指定されている。また、本殿から続く360mの美しい回廊は一見の価値ある歴史的建造物である。

歴史的建造物の位置



兵庫県姫路市 姫路城



白い鷺が舞い立つように見えることから別名「白鷺城」と呼ばれている。国宝・特別史跡であり、平成5年12月に17世紀初頭の日本の城郭建築を代表する史跡建造物として評価され、日本初の世界文化遺産となった。戦いへの知恵を秘めた美しい仕掛けが数多く見られた。

こんなことを
決めました

第2回定例会の主な議案の内容

令和7年第2回定例会は6月4日(水)から6月6日(金)までの3日間の会期で行われ、専決承認・条例改正、町道認定、補正予算、人事案件などの17議案を審議し、16件可決、1件を否決いたしました。

※専決処分…本来は議会が議決すべき事項を、首長（知事や町長）が決定すること。緊急を要する場合や、議会を招集する時間的余裕がない場合に、行政運営の遅滞を防ぐために行われるもの。

柳津町税条例の一部を改正する条例の専決処分について 【原案承認】

4月1日から施行される「地方税法等の一部を改正する法律」により条例の一部改正をする専決処分を承認した。

【主な内容】軽自動車税の課税区分が追加され、一部の電動キックボードが課税される。
軽自動車税の減免申請にマイナンバーカードの運転免許記録媒体の提示を可能にした、など。

柳津町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の専決処分について 【原案承認】

4月1日から施行される「地方税法施行令等の一部改正」により、中間所得層と高所得層の保険税引上げの公平性を図るための条例の一部改正をする専決処分を承認した。

令和7年度柳津町一般会計補正予算の専決処分について 【原案承認】

2月の大雪災害による令和7年度一般会計補正予算の専決処分を承認した。

【主な内容】大雪農業災害特別対策事業に関する予算の追加。(雪害ハウスの復旧、撤去、種苗等の購入)

柳津町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について 【原案可決】

国民健康保険税の税率を改正する条例を可決した。

【主な内容】後期高齢者医療保険・介護保険支援金課税に関する税率のみを増額し、併せて負担者と未就学児の子育て世帯への負担軽減額を増額させた。

町道路線の廃止並びに認定について 【原案可決】

道路法の規定に基づき県の改良工事により石生川口原線の一部を廃止し、残りの部分を新たに認定することを可決した。

令和7年度柳津町一般会計補正予算、ほか3特別会計、2事業会計の補正予算について 【原案可決】

令和7年度の各会計を増額する補正予算を可決した。

【主な内容】路線バス等の運行効率化実証実験に関する事業や上下水道事業会計への支出金などの増額。国民健康保険特別会計（事業勘定）については税率改正等に伴う増額。

固定資産評価審査委員会委員の選任について 【原案同意】

令和7年6月30日で任期満了となる飯塚勝己氏の再任に同意した。

工事請負契約の締結について 【原案否決】

平成18年に整備された、ふれあい館冷暖房機器（空調設備）の更新のための設備工事契約について、疑義があることから否決した。

(※詳細は次ページ)

契約金額 7,920万円

契約相手 会津若松市 株式会社アクーズ会津

消防用小型動力ポンプ普通積載車の購入について 【原案可決】

平成10年に配備した五疊敷班の消防用小型動力ポンプ積載車の車両更新のための購入契約の締結を可決した。

契約金額 1,177万円

契約相手 会津若松市 会津消防用品株式会社

第2回定例会の議案の審議（6月6日）

定例会の最終日に審議し否決された「ふれあい館冷暖房設備工事の工事請負契約の締結」についての質疑応答、討論等を要約してご紹介します。

【質問】ランニングコストの比較について

冷暖房設備システムは通常電気を使うものが多い。ガスを使うシステムなので、ランニングコストの比較について伺う。

【答弁】（公民館長）

- ・年間の使用料とライフサイクルコストをトータルで考えると1年間で22万円ほどガス式のほうが安い。その中身としては、冬季のデフロスト運転（霜を解除する運転）で電気が非常にかかり、ガス式のほうが安くなる。

以上で質疑は終了し、議員間の討論が行われました。

（※討論…各議員がそれぞれの主張を表明すること。）

【討論】緊急防災減災事業債を財源とする事業として疑義が生じている

反対の趣旨

- ① 緊急防災減災事業債を財源とした場合、指定避難所における空調設備に該当するが、熱源の選定について明確な根拠と優位性が示されていない。
- ② 仮に熱源をガスとすれば、供給としてバルク貯槽を用いた場合、災害が大規模かつ広域的だった場合は主要幹線道路が地下液状化や建物倒壊により通行不能になり、他町村からの供給停止になれば、内閣府の調査によると、東日本大震災での9割程度の復旧に係る日数は電気が6日間、水道が24日間、ガスは都市ガスを含んで34日間を要した。町内にバルク貯槽への供給設備を有している事業者がない現状では、地域経済に貢献していないばかりか、間口が広いとは認められない。入札、期間、方法、単価も限定的になってしまう。さらにスフィア基準を踏まえた備蓄となっているのかも不明。
- ③ 町では2050年ゼロカーボンシティを標榜として（かかげて）いるにも関わらず、二酸化炭素排出抑制に逆行するような施設改修は整合性が取れない。
- ④ ガスのバルク貯槽は20年を超えると5年ごとに高額な点検が必要となるが、ランニングコストの試算比較には設備の保守点検なども含めるべき。ほかの熱源についても今後の公的補助が行われる可能性も含めるべきではないか。
- ⑤ 令和7年度予算意見書にある新規事業の事前説明への対応が不十分である。

【賛成討論】 なし

【採 決】 賛成1、反対6で否決した。

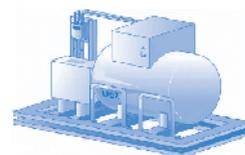
議員名	小林浩	渡邊俊典	磯目泰彦	岩淵清幸	新井田順一	田崎信二	荒明正一	松村亮	齋藤正志
賛○否×	○	×	×	×	欠席	×	×	×	議長

○用語の解説

緊急防災減災事業債…国の防災・減災、国土強靱化対策と連携して、地方団体が単独で防災インフラ整備が実施できるよう創設したもので、非常に幅広い防災インフラの整備に活用できる。

バルク貯槽…バルクとは、定置型のガス貯槽器のこと。

スフィア基準…正式名称は「人道憲章と人道対応に関する最低基準」で、被災者の権利と支援活動の国際的な最低基準を定めたもの。（例えば、避難所では1人あたり最低3.5平方メートルの居住スペースを確保するなど）



※否決された「工事請負契約の締結について」は6月30日に開催された第2回臨時会において、改めて審議されました。（次ページをご覧ください）

第2回臨時会審議（6月30日）

令和7年第2回臨時会が6月30日に開催されました。この臨時会では定例会で否決された「ふれあい館冷暖房設備工事の工事請負契約の締結」について審議されました。その内容を要約してご紹介いたします。

【質問】 ふれあい館の現状について

年間2万人から2万5千人の利用者、26団体の利用がある。地域の高齢者や子育て世帯などが利用するふれあいの拠点でもある施設の空調が機能していないと町民の活動に支障が出るのではないかと懸念されている。

【答弁】（町長）

・ご指摘のとおりで、1日も早く完備し町民の安全安心を確保したい。

【質問】 酷暑対策について

酷暑での熱中症が一番騒がれている時期になる。工事の完成が来年になるのであれば、酷暑に対する配慮が不十分だったのではないかと懸念されている。補正予算では対応できなかったのか。

【答弁】（町長）

・去年から設計に入り、今年度に入札するという順に進んでいる。財源の問題もあり、当初予算に計上した。完成が酷暑に間に合えばよかったが、現時点では寒さに対応できるように、すぐに進めていきたい。

【質問】 ガス式の採用について

令和4年の内閣府のアンケート調査結果では、熱源にガスが導入されている指定避難所が全国で5.6%、福島県全域では0.6%。残りの99.4%はガス以外ということになる。本当にガス式を進めていいのか。町民が納得できる明確な説明ができるのか。

【答弁】（町長）

・経済性、防災性、環境性、利便快適性の4つを総合的に判断して採用した。現在よりも優位性が高いと判断した。奥会津地域の環境に適していると考えている。

【質問】 整備ができなかった場合について

この状態が継続すれば、町民がどのようになってしまうと懸念されているか。

【答弁】（公民館長）

・地域の皆様が集まって、地域のことを考え、生活を考えていく、とても大切な施設だと考えている。冷暖房に不具合があり、使用できないということは、重く受け止めている。1日も早く解決して進めていきたいと考えている。



【答弁】（副町長）

・1日も早く整備しなければいけないと思っている。大規模な整備になるので、当初予算で計上し、議会の議決をいただいて新年度から入札等の準備に入るという手順になり、6月の定例会で契約締結の承認をいただくということが、町にとっては一番早くできる方法だと思う。また、工事を早く進めることで、来年の夏に間に合わせることができると思う。

【採 決】 賛成5、反対2で、原案どおり可決した。

議員名	小林浩	渡邊俊典	磯目泰彦	岩渕清幸	新井田順一	田崎信二	荒明正一	松村亮	齋藤正志
賛○否×	○	×	×	○	○	○	○	議長代理	欠席

令和7年第3回臨時会が7月18日に開催されました。この臨時会では「工事請負契約の締結」について審議されました。その内容を要約してご紹介します。

工事請負契約の締結について【原案可決】

大成沢・冑中地区簡易水道整備事業のうち、舗装本復旧工事の請負契約締結について可決した。

契約相手 株式会社海老名建設 柳津営業所 所長 齋藤 盛一
契約金額 1億395万円

【質問】 契約相手について

柳津営業所となっているが、これは町の法人税を伴わない事業所なのか。

【答弁】（建設課長）

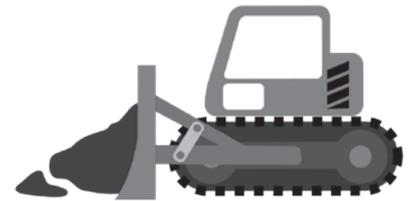
- ・海老名建設は指名参加資格申請書を提出しているが、その委任事業所となっている。また、町に法人税を納めている。

【質問】 契約相手の実績について

工事实績はどうなっているのか。

【答弁】（建設課長）

- ・町の工事では琵琶首地内町道修繕工事やスキー場関連の工事を実施している。県の400号杉峠の改良工事など、県の工事も請け負っている事業所である。



中学生議会開催のお知らせ

予定日時 10月16日(木) 午前10時 開会



会津柳津学園中学校3年生による模擬議会「中学生議会」、今年のテーマは「持続可能な柳津町をつくろう」です。

町に対する疑問や提案を議場において一般質問します。「ふれあい館・ゆきげ館」でテレビ中継します。ぜひ、ご覧ください。

(※議場では中学生が傍聴します)

過去の中学生議会の動画がスマートフォンやパソコンで見られます。

QRコードはこちら→

URLは<https://www.town.yanaizu.fukushima.jp/docs/2016121400016/>



一般質問の一覧

定例会初日（6月4日）に5名の議員が町政について、一般質問を行いました。

【8ページ】 3番 磯目 泰彦 議員

- 1、廃棄物適正処理と環境保全について

【9ページ】 1番 小林 浩 議員

- 1、ふくしまDC（デスティネーションキャンペーン）における本町の取り組みについて

【10ページ】 6番 岩淵 清幸 議員

- 1、町職員の働き方改革及び職場環境整備について

【11ページ】 10番 松村 亮 議員

- 1、子育て支援について
- 2、公共施設について

【12ページ】 2番 渡邊 俊典 議員

- 1、林業について
- 2、農業について

一般質問 5名の議員 町政を問う

※一般質問とは…議員が議長の許可を得て、町の事務全般について質す発言ができる。事務の執行状況や町の方針について報告や説明を求めること。



議会録画映像のお知らせ

委員会代表質問や一般質問の映像は町の公式ホームページから視聴することができます。（町公式ホームページのURLは「<http://www.town.yanaizu.fukushima.jp>」です）



スマホやタブレット端末からも、見ることができます！

（右のQRコードをご利用ください）



快適で美しいまちづくりについて問う！



3番 磯目泰彦議員

○廃棄物適正処理と環境保全について

Q 第六次町振興計画の基
本目標「快適で美しい
まちづくり」の廃棄物適正処
理とゴミ分別の徹底は、持続
可能な循環型社会を目指して
行くため、具体的目標を定め
ていかなければいけないが、
次の2点について伺う。

①ごみ減量化の推進。
②分別収集の推進

A (町長) ①令和6年度
実績では、1日あたりの
総排出量が744tと計画
達成は大変厳しい。ゴミ分別
表の配付や生ゴミ処理容器「キ
エーロ」の実物展示などをし
てきたが、さらなる減量化を
目指していく。

②皆様のご協力によりリサイ
クル率は徐々に向上している。
情報を簡単に確認できる環境
を整え、さらなる向上を目指
していく。

Q デジタル化や情報発信
の強化などの内容につ
いて伺う。

A (町民課長) ①町公式
ホームページやLINE
E、福島県環境アプリなどで
情報提供をしている。このア
プリは収集日を通知してくれ

る仕組みになっている。

Q アプリの登録者数を把
握しているか。認知度
アップのためのQRコード掲
載まで進められるか。

A (町民課長) 現在、町
には59名の登録者がい
るが、ホームページやLINE
Eのリンクは自由に掲載でき
るので、積極的にPRしてい
きたい。

Q 地域での説明会の過去
の実績と今後の展望に
ついて伺う。

A (町民課長) 毎年、区
長や婦人会、日赤奉仕
団の会合等で説明会を実施し
ている。今後も、そういった
会合に併せて説明していけれ
ばと考えている。

Q 町民の方が独自で「こ
んなことをやっている
んだ」ということを伝える取
り組みについて伺う。

A (町民課長) 他市町村
では広報紙による紹介
をしているので、良い内容が
あれば広報紙を使って広報し

ていきたい。

Q これまでの施策を広い
視点からの振り返りを
伺う。

A (町長) 令和7年度の
目標値達成が厳しい現
状だが、諦めることなく努力
していきたい。

Q 生ゴミ処理機購入補助
事業は50台の予算規模
だが、どの程度の削減につな
がるのか。

A (町民課長) 生ゴミは
水分があり、ゴミの重
さの半分を占めているので、
その重量を減らすことは減量
効果が高いと考え、補助事業
を始めた。

Q ゴミ減量の目標達成が
困難であるということ
は、実施内容から見ても矛盾
している。6年間何もしてい
なかつたと捉えられても仕方
がないと思うが、この責任を
どのように取るのか伺う。

A (町長) 補助事業を通
じて家庭から出る生ゴ
ミの減量化、減水に力を入れ

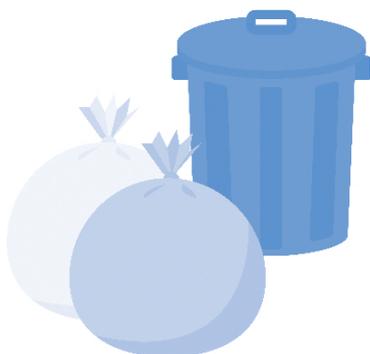
て取り組んでいきたい。

Q 他町村ではゴミ袋の統
一化や一部収集有料化
の動きがあるが町の見解を伺
う。

A (町民課長) 現在のと
ころ、有料化について
は考えていない。

Q 高齢者のみの世帯が急
増して、冬期間は資源
ゴミの回収を中止せざるを得
ないと聞く。回収ボックスに
ついての考えを伺う。

A (町民課長) ゴミステ
ーションの設置補助は
現在ないが、地区とよく協議
して進めていきたい。



町の魅力を発信する取り組みについて問う！

○ふくしまDC(デスティネーションキャンペーン)における本町の取り組みについて

※デスティネーションキャンペーン(DC)とは…
地方自治体や地元観光関係者等とJRグループ、旅行会社が協力して特定の地域で3ヶ月間の集中的宣伝を行い、全国からの送客を図り、地域を活性させる目的の大型観光キャンペーンのこと。



1番 小林 浩 議員

Q JRグループと県、沿線市町村、地元観光業者等が連携した大型観光キャンペーン「プレDC」が今年、「DC」が来年開催されるが次の点について伺う。
①プレDC特別企画の成果
②正式DCの取組と課題
③地元観光業者との連携

A (町長) ①「モダン駅フェス」は約8百名の方が、「圓藏寺お茶会」は、各回百名弱の参加者があり好評を得た。フォトコンテストも約五十件の応募があり、一定の成果を上げることができた。

②プレDC特別企画の内容を軸に関係団体や観光事業者の連携を深め、内容検討した。少子高齢化、人口減少で実施運営するプレーヤーが少なくなっているため、連携等で補完しているか考えている。

③プレDC企画発案に関係機関や団体・事業者とワークショップ(研究集会)を開催した。また、広告物設置などで地域の盛り上がりにご協力を頂いている。来年度のDC本番でも連携を図りたい。

Q 「久保田三十三観音まつり」など、既存で実施されている地域イベントとの連携を図るのも重要ではないか。

A (地域振興課長) 伝統行事等との連携は、大変有効な手段と認識しており「久保田三十三観音まつり」も期間中の一つとして掲載させていただいた。本番DCに向け、町内の各団体、事業者と再度会議の場を設け、協議を進めたい。

Q 柳津町には「赤べこ伝説」や只見川沿いの景観など、魅力的な観光資源があるが、新たな観光コンテンツ(事業)の開発や既存コンテンツのブラッシュアップ(改良)の計画があるか伺う。

A (地域振興課長) 県のサポート事業を受け、奥会津ビジターセンターを拠点とした自然公園利活用の取り組みをしている。具体的には、講演会の実施、観光コンテンツ造成を目的とした先進地視察、自然ガイドの養成などを計画している。トレイルウォークやサイクリング、カヤックなど、自然を生かしたコンテンツを目指したい。

Q 県外や他町村の方々へ向けてSNS(ソーシャルネットワークキングサービス(略))等での発信力が弱いと感じるが、今後の取り組み

A (地域振興課長) さらに強化が必要と考え、紙媒体の広報に加え、LINEやインスタグラムなどのSNS、ウェブ広告などのデジタル媒体にも力を入れ、より効果的に町の魅力を発信できる工夫をしたい。

Q DC本番に向け、インバウンド(訪日旅行)施策の具体的な取り組みについて伺う。

A (地域振興課長) ユーチグループ動画広告や県主催の台湾商談会参加を予定している。国ごとに人気の季節があるので、DC期間に限らず海外に発信していきたい。一方、再来訪につながる受入体制の強化も大変重要で、関係団体や事業者と連携を図り、勉強会などで協議を重ねたい。

Q 関係機関団体や観光事業者とワークショップ(研究集会)を定期的に開催してほしいが、町は町内観光関連業者に「ふくしまDC誘客促進支援事業」として最大三十万円の補助を実施している。申請と採択の状況を伺う。

A (地域振興課長) 現在、申請はない。数件の相談が寄せられている。この補助金は、本番DCの準備も対象としている。また、県の補助率十分の十、上限二百万円の補助金もあり、町内で一団体が採択されている。DC本番に向け、事業者が新たな観光資源の開発やプロモーション(促進)活動ができるよう支援してまいりたい。

Q 「ふくしまDC」による観光客の増加が町に与える影響や波及効果について、どのように考えているのか伺う。

A (地域振興課長) 地域への経済効果は大きいと考える。今回のDCで最も大切なのが、一過性にしないということ。お客様が満足し、また来たいと思っただけ、口コミやSNS等の情報発信で新たなお客様が生まれる、という好循環をつくり出すことが重要と考えている。



「働き方改革」について問う！



6番 岩瀬清幸議員

○町職員の働き方改革及び 職場環境整備について

Q 町職員の働き方改革をどのように進めようと考えているか。また、職場内での働く環境の改善方法について、町長の考えを伺う。

A (町長) 長時間労働に起因する過労死等が問題となり、法律による制限が設けられ、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が施行されたが、町役場でもノー残業デーを実施しており、その後、宿直業務を業者委託し、職員のストレスチェックを開始した。また夏季休暇を三日から五日にし、職員のハラスメントの防止等に関する要綱による相談窓口を設置、対応強化に努めている。また、デジタル化や研修受講等によるスキルアップでの効率化も考えられ、生産性向上、残業時間削減で、仕事をしやすい環境づくりに努めたい。

討しているか伺う。

A (総務課長) 時間帯で窓口業務を行わないところが増えている。休み時間が確保でき、リフレッシュして仕事を行えるなど、効率的に業務ができるメリットもある。ただ、役場の窓口で行うと、勤めの方などの対応をどのようにするか、役場の機能を時間帯で止められるのかなどを解決しなければならぬ。

Q 福島県庁でのテレワークの取り組みと我が町への導入可能性について伺う。

A (副町長) 県庁では、職場のパソコンを自宅で遠隔操作できるシステムを導入しており、各種決裁がパソコン上でできる。主に子育て中の職員、出張が多い職員などが企画業務部門を中心に活用しているが、本町は県庁とは違って地域住民に近い立場にあり対面や現場業務が多く、環境整備等が必要ではないかと考えている。

Q 全国の自治体で生成AIの導入が進んでいるが、町長はどのように考えているか伺う。

A (町長) 総務省は生成AIの活用事例等を公表し、導入率は年々高くなっている。各方面で実証実験等が行われ、効果も大きいと思うが、反面、課題も同じくらいあると言われている。現時点ですぐに導入することはないが、近い将来には実用化していくようになると思う。

Q 人事異動の基本的な考え方、職員からの希望受け入れについて伺う。

A (町長) 人事異動は、組織の効率性向上と個人の成長を追求していくことに尽きると思う。職員からの希望については組織の安定と職員の成長を考慮しなければいけないことから、全て聞き入れるわけには行かないし、できないことだと思っている。

Q 公平公正な人事評価制度になっているか、評価基準等が明確になっているか伺う。

A (総務課長) 職員の業績と能力を評価して給与昇進、人材育成、人事異動などの人事管理の基礎として活用される仕組みで、公平で透明性のある制度である。人事、環境変化等に対応していくために、必要であれば評価そのものの改善も行っていく。

Q 「自治体で広がる窓口時短」という新聞記事を目にしたが、我が町では検



重点的な施策の方向性について問う！



10番 松村 亮 議員

- 子育て支援について
- 公共施設について

Q 高等学校等就学給付金支給事業が終了した。どのような議論がなされ、事業終了という極端な結論に至ったのか。

A (教育長) 児童手当の支給対象が拡充され、高校授業料無償化も実施される。国からの手厚い支援が行われることから判断に至った。

Q 町は町の高校生に対して必要だと思っただけで始めたことを、国の如何でやめることはおかしいと思うが。

A (教育長) 国が高校生を支援していく動きになり、町予算を学校施設・設備等の充実に充てたいので、やめることにした。

Q 振興計画実施計画書に最上位計画に記載があるのに、やめるということの整合性について伺う。

A (教育課長) 国の子育て支援が大幅に拡充され、今後、国がこの制度に大きく関与していく見通しも踏まえ判断した。

Q 対象世帯の所得税及び住民税の控除減額が並行して議論されており、経過を踏まえれば、現時点での事業終了が適切と言いが、いかがか。

A (総務課長) 児童手当の拡充により、手取りの増加が期待でき、この機会が適切であった。

Q 厳しい財政状況も勘案してということならば、他にメスを入れなければいけない分野があるのではないか。

A (総務課長) 予算編成が例年以上に困難を極め、厳しい査定を行っている。

Q 町の将来像から考えた場合、みらい創生の象徴は子供であり、やってくることが逆行しているように思うが、辻褄が合うのか伺う。

A (町長) 国と町の違いはあるが、切れ目のない環境が維持できていると考えている。

Q 会津柳津駅舎の管理運営に関して伺う。

A (町長) 町、観光協会、カフェ事業者、赤ベコ工房の四者が毎月定例ミーティングを行い意見交換や情報共有をすることにより、一定の理解の下で運営できた。

Q 駅舎条例制定の審議で、利用料について指摘させて頂いたが、今後の見直しの必要性について伺う。

A (地域振興課長) 年間通した維持管理費用が把握可能となっていくので、精査し試算していく。

Q 現在、カフェの平日営業について減免措置がなされている。そもそも減免措置の対象となり得るのか。なぜ、平日は減免で休日は違うのか。

A (地域振興課長) 公益上、減免が認められると決定した。平日の来場者は少なく、経営上、厳しいという考えも内容に繋がった。

Q 交流施設として効果を最大化するのであれば、利用料をなくし、人もアイデアも集まるものにしてはいいのではないか。

A (地域振興課長) 検討していくご意見として承りたい。

Q 地域との関わりが、まだ薄いと感じる。どのように地域と結びついた施設にしていくのか伺う。

A (地域振興課長) 地域や観光関係者を巻き込んだ取り組みで地域全体が盛り上がり上がっていかればよい。

Q 本施設を役場が直接管理するのは現実的ではない。早期に方針決定し、道筋をつける必要性を伺う。

A (地域振興課長) 明確な時期は示せないが、運営事業者とも相談し、指定管理者制度も含めて協議していきたい。

【指定管理者制度とは】 地方公共団体が、公の施設の管理を行わせるために企業・法人・NPO・市民グループなどに包括的に代行させることができる制度。

町の基礎的な産業の振興政策について問う！



2番 渡邊俊典議員

○林業について ○農業について

Q ①全国では林業が主要な事業となっている町もある。豊富な森林を活用する構想等があるか。また、町も関わっている公社造林の現状について伺う。②農業従事者の高齢化が進んでいるが、町の農業をどのようにして守っていくのか伺う。

A (町長) ①令和6年度に策定した「森林利用ビジョン」に基づき、人材育成をしていきたい。また森林の境界明確化や森林経営計画策定のための地域林政アドバイザー業務委託を実施している。公社造林は、伐期が来ているので、皆伐再造林を要望していきたい。

②国の動向や先進事例などを注視し、みらい農業会議等の方々と意見交換、協議を重ね、地域営農方針を固めていく。森林環境譲与税や中山間地域等直接支払制度等を活用し、荒廃しないように地区や関係団体等と、努めていく。

Q 地域林政アドバイザーは必要なのか。費用が膨らむので、町の中である程度、育てていくべきではないか。

か。

A (地域振興課長) 森林経営計画策定は、素人では厳しい。地方交付税を活用できるので、必要なものと認識している。

【意見】 森林アドバイザーを使わずにできるよう、勉強していただきたい。

Q 今、山をやるにしても道路がない。例えば、駅のかい側が荒れている。町のおちこちで活性化することはできると思うが、駅のかい側への道路を造ってみてはどうか。

A (地域振興課長) 景観整備事業で、森林環境譲与税活用「アクションプラン」があり、地区や団体からの要望を取り、優先順位をつけて進めていきたい。また、ふくしま森林再生事業で間伐と作業路開設を今年度、2地区予定している。所有者との協議も必要なので、大きな林業事業所がない当町では、どうしても、お質のような形になってしまう。後継者をき

ちんと育てられるように利活用ビジョンを進めていきたい。

Q 町の農業人口は20年後には2割程度になってしまう。国では稲作を大規模化し、ある程度まとめるというが、できるくらいの面積があるところがどのくらいあるのか。

A (地域振興課長) 中山間地域であり、小さい田がいっぱい、急傾斜でもあり、まとめるのは難しい。まとめられる部分は、まとめていき、まとめられない部分も、集落営農や地域協力や、国の補助金等を活用しながら、なるべく荒廃農地が出ないようにしていくことが必要なのではないかと考えている。

Q 棚田等を荒らせば、人工的に造ったところは、災害は起こりやすい。そういうところを守るには、国が言う大規模化して安くということではなく、山間部は山間部で、例えば、ふるさと納税の返礼品として出せるようにす

るなど、そういうことを考えることはできないのか。

A (町長) 米も、その他の農作物も、より付加価値をつけて、安定的に売れる仕組みをつくっていくのが仕事だと思うが、売ることを、町が直接手を出すのは、あまり得策ではないと思っている。今、注目をされている中間支援組織の成功例があり、柳津に持って来れないか考えている。

※中間支援組織：農業公社や農業法人などが大規模農業経営を目指して参入し、地域の農地集約化やスマート農業などを推進して持続可能な農業を目指している。



会津柳津学園中学校で講話しました

5月30日（金）会津柳津学園中学校において、総合的な学習の時間で第3学年を対象に中学生議会に向けての議長講話が開催されました。3年生の皆さんからいただいた質問に答えながら、町と議会の関係や仕組み、議会の役割など実際の体験を交えてお話しさせていただきました。



令和7年度の議会モニターを委嘱しました

6月4日（水）正副議長室において、令和7年度の議会モニターの方々へ委嘱状交付式を行いました。議会の運営に関するを中心に、いろいろなご意見等をいただき、今後の議会運営の参考にさせていただきます。

委 嘱 者

鈴木 早苗（小ノ川）
金子セツ子（砂子原）
白井 猛（野老沢）
岩佐 傳（猪 鼻）
鈴木 恭子（大成沢）

町民と議会との懇談会を実施しました

6月30日（月）猪鼻会館において、猪鼻地区と議会との懇談会が開催されました。

議会を代表して、産業厚生常任委員3名が訪問し、地区の方々と、日頃の生活における、さまざまな疑問やご意見、ご感想などをお聞かせいただきました。

地区の皆様には、お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。



令和6年度会計の決算審査が実施されました

7月22日（火）から7月31日（木）までの7日間、町監査委員による令和6年度会計の決算審査を行いました。その結果について、8月6日（水）に講評を行いました。



福島県町村議会広報研修会に参加しました

7月1日（火）郡山市ビックパレットふくしまにおいて、県町村議会議長会主催の広報研修会が開催されました。当町議会では広報常任委員3名が出席し、より良い紙面づくりを学びました。

講師：一般社団法人自治体広報公聴研究所
金井氏

演題：戦略的広報と議会報づくりの型

内容：SNS等の情報選択型のコミュニケーション手段を活用する若い世代に合ったインパクトの強い紙面づくり



福島県への要望活動を実施しました

7月8日（火）福島県庁において、福島県への要望活動を行いました。県の土木部及び教育庁を訪問し、課題とされている主要地方道柳津昭和線・県道滝谷桧原線桧原バイパスの整備促進と只見川河川整備事業（柳津地区）の整備促進、特別支援学級の新設と専門的な指導のできる教員の配置、極小規模校への学校事務職員の配置を要望しました。

また、西山尚利福島県議会議長を表敬訪問しました。



第35回両沼地方町村議会議員大会が開催されました

7月24日（木）昭和村公民館において、両沼地方町村議会議員大会が開催され、両沼地方の議会議員約100名が集まりました。

各町村議会の要望書の提案及び採択が行われました。

柳津町議会では一般県道と主要地方道の整備促進について提案しました。採択された要望書は後日、両沼地方町村議会議長会で国・県へ要望します。



要望書を読み上げる松村委員長

— 議会の動き (令和7年第1回定例会以降) —

- 3月13日 会津柳津学園中学校卒業証書授与式
- 13日 会津総合開発協議会会津若松地方部会調査研究事業(会津若松市)
- 19日 町体育協会年間表彰授与式(ふれあい館)
- 21日 柳津小学校卒業証書授与式
西山小学校卒業証書授与式
- 4月7日 柳津小学校入学式
会津柳津学園中学校入学式
- 14日 町赤十字奉仕団総会(銀山荘)
- 17日 両沼地方町村議会議長会定期総会(会津坂下町)
- 18日 議会全員協議会
- 27日 町消防団春季検閲式(運動公園)
- 5月8日 町国際交流協会総会(ふれあい館)
町花き振興協議会総会(せいざん荘)
- 12日 町体育協会総会(ふれあい館)
- 16日 奥会津五町村議会議長連絡協議会総会(只見町)
- 20日 議会全員協議会
- 23日 広域市町村圏整備組合議会臨時会(会津若松市)
- 27日 全国町村議会議長・副議長研修会(東京都)
- 28日 議会運営委員会
- 30日 会津柳津学園中学校3学年議長講話

講演会を開催

演題：会津地方における地域医療の現状とオンライン診療の更なる展開策
講師：竹田総合病院医師 石田先生

講演会を開催

演題：広域災害対応を含めた自治体の災害対応力強化に不可欠な「防災DX」
講師：内閣府政策統括官付 松本参事官

演題：平成からの災害に学ぶ復興復興まちづくりの課題
講師：明治大学名誉教授 青山先生

演題：災害と議会・議員の役割
講師：同志社大学名誉教授 新川先生

次回定例会のお知らせ

令和7年
第3回定例会

9月3日(水)～9月10日(水)
《9月3日 午前10時開会》

- ・初日は「一般質問」を行います。
- ・ふれあい館とゆきげ館でテレビ傍聴できます。



ちょっと一言

今年も暑さ厳しい夏になりました。振り返りますと、2月には、記録的な大雪となり、町内各所でパイプハウスや住宅の雪害が多発いたしました。しかし人的被害が報告されなかったのが幸いであります。そして季節は移り、から梅雨と西日本の記録的な速さでの梅雨明けとなりました。近年の気象現象は「記録的」や「10年に一度」という放送がオンパレードになっているような気がします。2025年の今年に限っては、さらに「大災害が発生する」という予言や「中東地域での紛争拡大の懸念」があり、こうした不安定な情勢が要因となり、外国人旅行者が一時的に減少してしまいました。我が町の状況に目を向けてみますと、国道252号線の県境付近の通行止めにより、来町者の減少に繋がったと感じられます。

いずれも個人や町レベルではどうにもならないことなのかもしれませんが、日本全体が低迷していることは確かです。一日も早い景気回復を望みます。過ぎ行く季節を見送りたいと思います。皆様もごつつか「白髪くたさう」。(磯田泰彦)

広報委員会

委員長	新井田 順一
副委員長	小林 浩一
委員	渡邊 俊典
委員	荒明 正一